

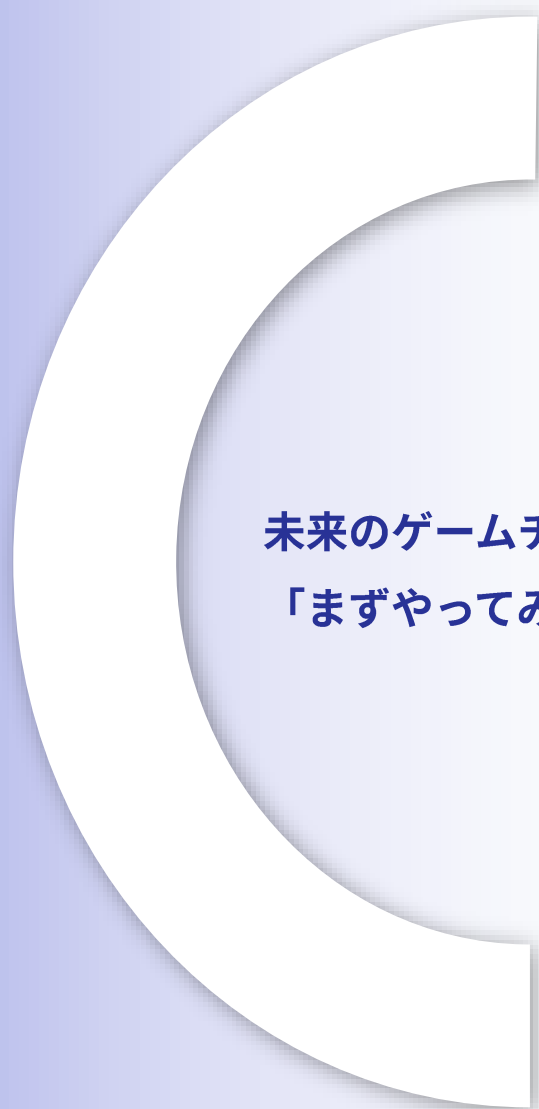


**かっこ株式会社 | 証券コード:4166**  
**事業計画および成長可能性に関する資料**

Business Plan and Growth Potential

COPYRIGHT 2026 Cacco Inc.

2026年3月31日

A large, white, stylized letter 'C' graphic that is partially cut off on the right side, set against a light blue gradient background.

**未来のゲームチェンジャーの  
「まずやってみよう」をカタチに**

## Cacco Evolutionary Purpose

# 未来のゲームチェンジャーの「まずやってみよう」をカタチに

Cacco Evolutionary Purposeには、世の中をよりよくしていこうと挑戦する人や企業に寄り添い、日本経済の発展に貢献していきたいという想いが込められています。

創業当時、インターネット取引における不正は少なく、世の中に十分な機能を備えた不正検知サービスもありませんでしたが、私達は、近い将来、ECをはじめとするあらゆるインターネット取引において、多様かつ膨大な不正行為が発生するであろうと考えていました。

それから約10年、私達の予想通り、不正行為はあらゆるインターネット取引において発生しており、その手口はより複雑化するとともに、さらに進化・拡大を続けております。

『O-PLUX』は、2012年のリリース以降、進化する脅威にも十分対応できるよう開発を重ねてきた結果、現在では日本国内導入数No.1※のご評価をいただいております。

Caccoは、今後も、セキュリティ・ペイメント・データサイエンスの技術で新しい価値を作り上げる会社として、Cacco Evolutionary Purposeを実現し、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。



※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

## 会社概要

社名	かっこ株式会社 (Cacco Inc.)
代表者	代表取締役社長 岩井 裕之
事業内容	SaaS型アルゴリズム提供事業 (不正検知サービス、決済コンサルティングサービス、データサイエンスサービス)
資本金	13,145,000円
上場市場	東京証券取引所グロース市場(証券コード 4166)
設立	2011年1月28日
住所・TEL	東京都港区元赤坂一丁目5番31号 TEL : 03-6447-4534
特許	特許第6534255号・特許第6534256号・特許第6860156号
認証	ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム) ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 登録番号:IA120255 プライバシーマーク® 第10824248号

## 沿革

2011	● 1月	創業 (不正対策コンサルティング)
	● 11月	決済コンサルティングサービス開始 (BNPL※事業者の決済システム開発・コンサルティング)
2012	● 6月	不正検知サービス「O-PLUX」リリース
2015	● 1月	データサイエンスサービス開始 (小売・製造業等のデータ解析・アルゴリズム開発)
2016	● 7月	不正ログイン検知サービス「O-MOTION」リリース
2020	● 12月	東証グロース上場
2021	● 10月	株式会社エルテスと資本業務提携
2022	● 12月	後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」リリース
2023	● 2月	バリュークリエイション株式会社と資本業務提携
	● 6月	フィッシング対策パッケージ「鉄壁PACK for フィッシング」リリース
2024	● 9月	メールチェックサービス「Mail Validator」リリース

※BNPL: Buy Now Pay Laterの略。後払い決済のこと。

# 目次

- 1 事業内容
- 2 市場環境
- 3 特徴と強み
- 4 成長戦略
- 5 事業計画および進捗
- 6 主な事業リスクと対策

COXIO

---

# 事業内容

Business Information



# 事業内容 | サービス領域

入口から出口まで、安全なネットインフラ構築をワンストップで支援

## 01 LOGIN CHECK



EC・金融機関・会員サイト



**鉄壁PACK** for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供



**O-MOTION**

**O-PLUX Account Protection**

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。



## 02 TRANSACTION



受注・決済システム



**O-PLUX Payment Protection**

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

**国内導入実績No.1**※。



**SaaS-type BNPL system**

初期投資の掛からない後払い決済（BNPL※2）導入パッケージシステムを提供。



## 03 ANALYSIS



不正傾向・購買需要分析



**データサイエンスサービス**

AI・統計・数理最適化技術を用いた高度なデータ解析。

不正傾向分析のほか、小売業の需要予測や生産計画最適化など、あらゆる分野にデータ分析サービスを提供。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

※2 BNPL：Buy Now Pay Laterの略。後払い決済のこと。

# 事業内容 | 提供サービス一覧・収益タイプ



## SECURITY

### 不正検知

#### ストック収益

#### O-PLUX Payment Protection

EC決済、転売などにおける代金未払い等の不正注文をリアルタイムに検知。

#### O-MOTION

#### O-PLUX Account Protection

EC・金融機関・会員サイト等における不正アクセス・不正ログインをリアルタイムに検知。

#### 鉄壁PACK for フィッシング

フィッシングメールやドメイン検知、なりすましログイン対策をワンストップで提供



## PAYMENT

### 決済コンサルティング

#### フロー収益

#### 決済コンサルティングサービス

決済事業者やBNPL導入検討事業者へのシステム提供およびBNPL事業コンサルティングを実施。

※審査エンジンには「O-PLUX」を使用。

#### ストック収益

#### SaaS-type BNPL system

初期投資の掛からない後払い決済導入パッケージ「SaaS型BNPLシステム」を提供。ECショッピングカート・大手EC事業者などにも提供。



## DATA SCIENCE

### データサイエンス

#### ストック収益

#### フロー収益

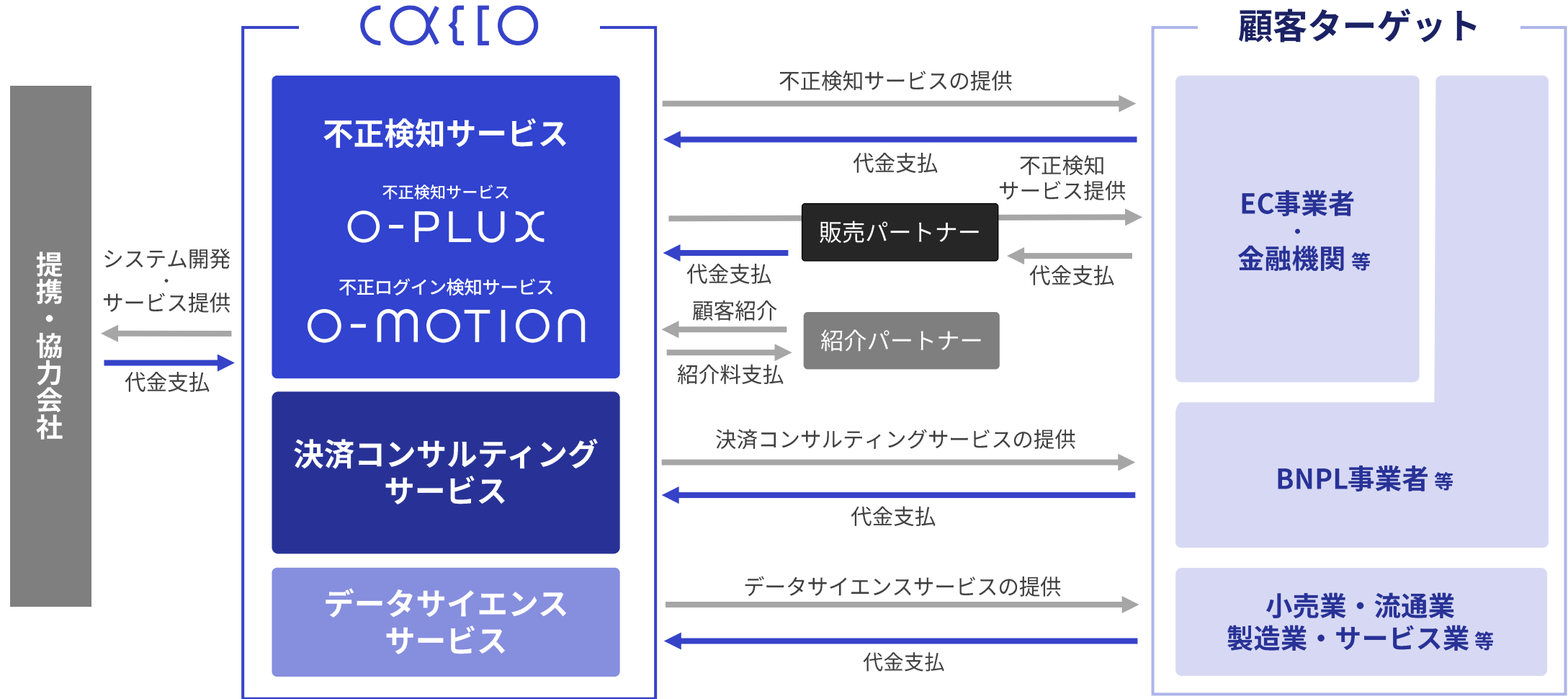
#### データサイエンスサービス

AI・統計・数理最適化の技術を用いたデータ解析及びアルゴリズムの開発・提供。

- ・ 製造業の最適な生産計画作成
- ・ 小売業の需要予測
- ・ コールセンターの最適シフト作成

など、あらゆる分野にデータサイエンスサービスを提供。

# 事業内容 | 商流・顧客ターゲット



# 事業内容 | 売上高の構成 (FY2025 通期売上)

# 83.6 %

不正検知サービスが  
圧倒的な成長ドライバー。

当社の売上の8割以上を占めるのは、ストック型収益を基盤とする「不正検知サービス」。

安定した収益基盤の上に、データサイエンスや決済コンサルティングといった周辺領域が積み上がる構造となっている。

■ 不正検知サービス **83.6%**

■ データサイエンスサービス **7.0%**

■ 決済コンサルティングサービス **6.22%**

■ その他 **3.11%**



※その他=SaaS型BNPLシステムの売上を含むその他売上

COXIO

---

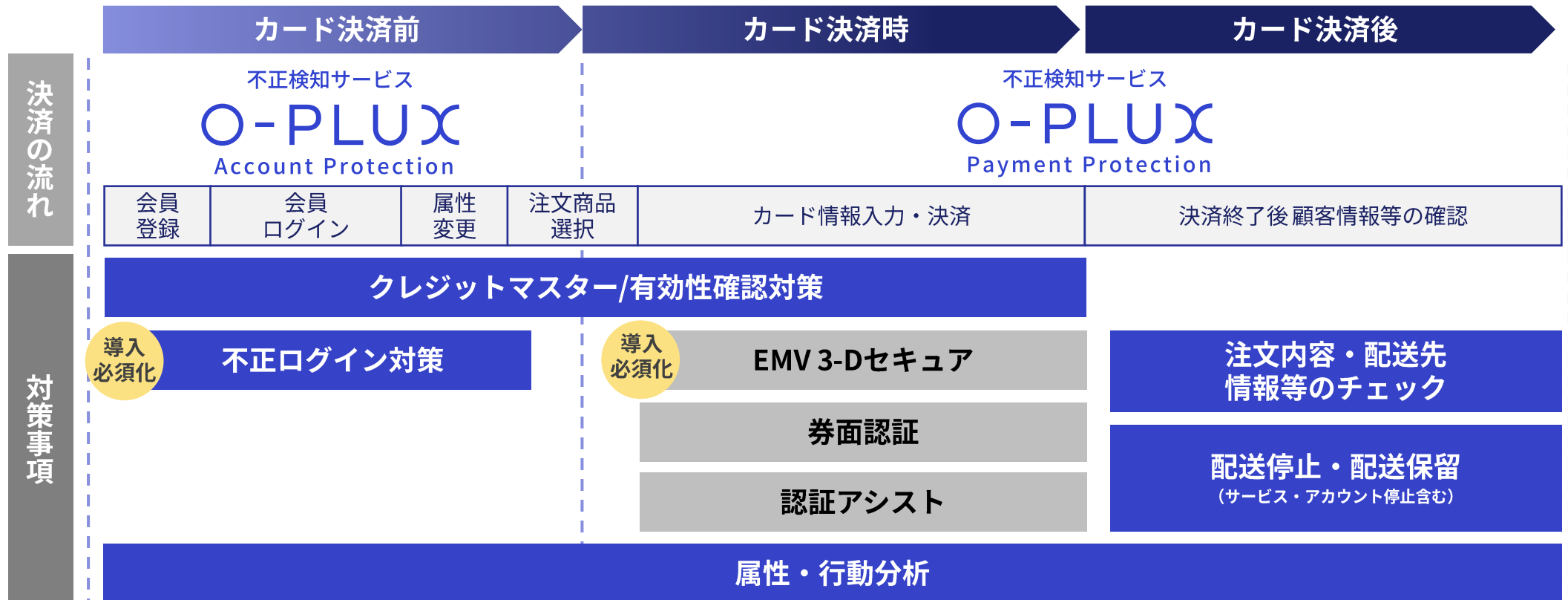
# 市場環境

Business Environment



2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】<sup>※1</sup>において、EMV 3-Dセキュア<sup>※2</sup>の導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化されるなど、EC加盟店にとって、クレジットカード取引の流れを「線」として捉え、その線上の各タイミングにおいて適切な不正利用対策を講じることが重要となった。そうした「線の考え方」に基づく一貫した対策が可能なCaccoの不正検知サービスにとって良い市場環境になりつつある。

## O-PLUSで一貫した不正対策が可能



※1：クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会） 2025年3月

※2：EMV 3-Dセキュア：インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

= O-PLUSで対応可能

### 不正被害の深刻化

クレジットカード不正利用被害は500億円規模で高止まりしており、EC事業者における対策ニーズは依然としての高い水準に。



### 新たな課題「承認率低下」

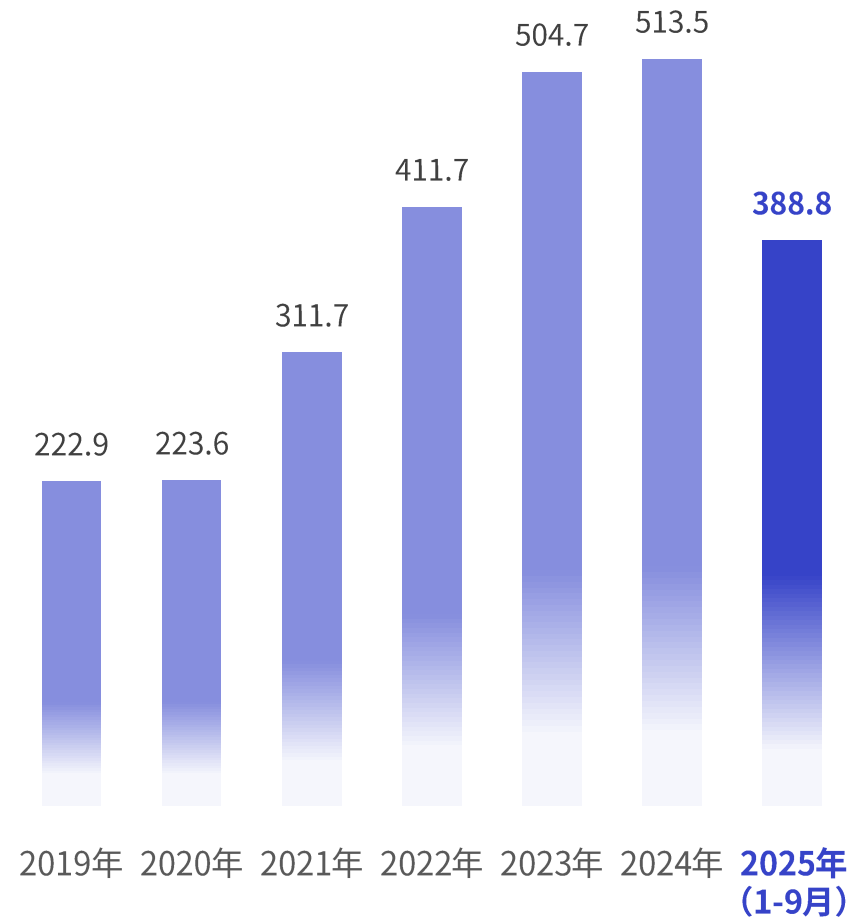
不正利用対策レギュレーション強化※1によりセキュリティ強化（EMV 3-Dセキュア義務化）が進む一方で、不正被害の責任は「加盟店」から「カード会社」へ移行。これによりカード会社が審査基準を厳格化した結果、決済承認率が低下。

### 「カゴ落ち対応」のニーズ増加

真正なユーザーが本人認証の手間を嫌い、離脱してしまう「カゴ落ち」（＝EC事業者の販売機会損失）が課題化。「不正は止めたいが、売上は落としたいくない」というEC事業者のニーズが高まっている。

### クレジットカード不正被害額（番号登用）※2

（単位：億円）



※1：2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会））において、EMV 3-Dセキュアの導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化

※2：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2025年12月

### ⚠️ 大手ネット証券を中心に不正アクセス被害が発生

2025年初頭から大規模な不正アクセスが急増

被害総額: 2025年7月末までに約6,200億円、年間では約7,393億円。 ※1

被害件数: 不正アクセスを受けた口座は約1万5,000件、不正取引件数は累計9,752件。 ※1

### 🛡️ 手口の巧妙化による既存認証手段の限界

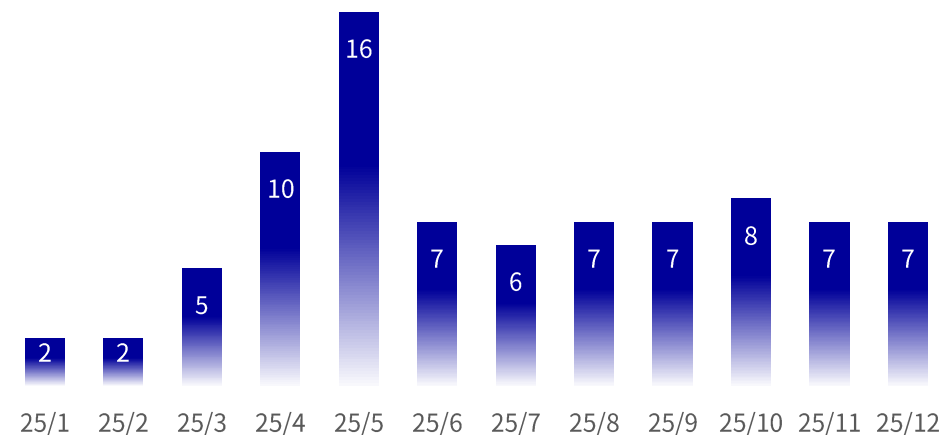
ダークウェブへ流出した160億件の認証情報を悪用したリスト型攻撃に加え、マルウェアを経由した「遠隔操作」や、AIが生成する高度なフィッシングにより、従来のID/PW認証は期待された役割を果たせなくなっている。

### 🔄 規制強化と業務負荷

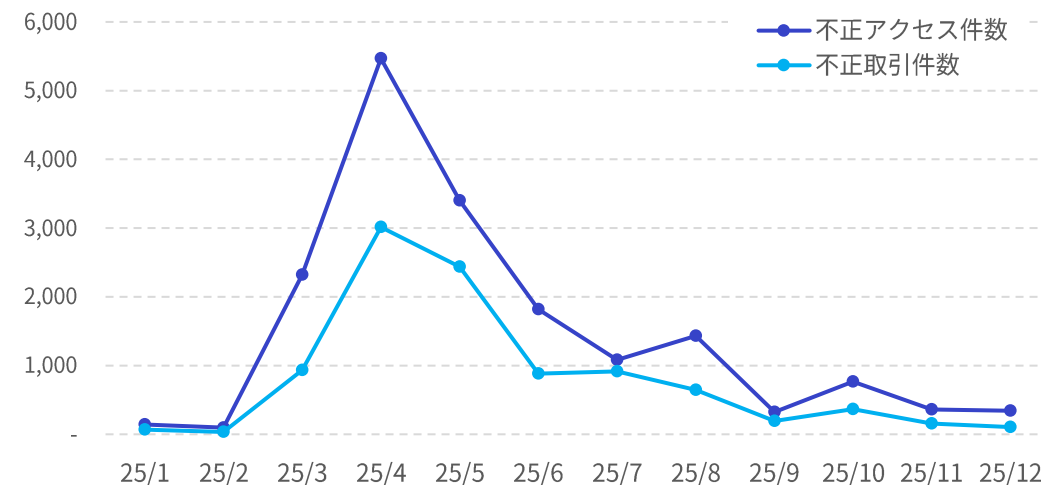
金融庁による監督指針※2等により、内部管理態勢の整備および口座開設・ログイン・取引時におけるセキュリティの確保等が求められ※3対策業務負荷が増大している。

➡️ **多要素認証※4 (MFA) 必須化・不正アクセス検知必須化**

— 不正取引が発生した証券会社数推移※1 —



— 不正アクセス・不正取引件数推移※1 —



※1: 金融庁「インターネット取引サービスへの不正アクセス・不正取引の発生状況」2026年1月

※2: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月

※3: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月 - (監督指針III-2-8-2-2)

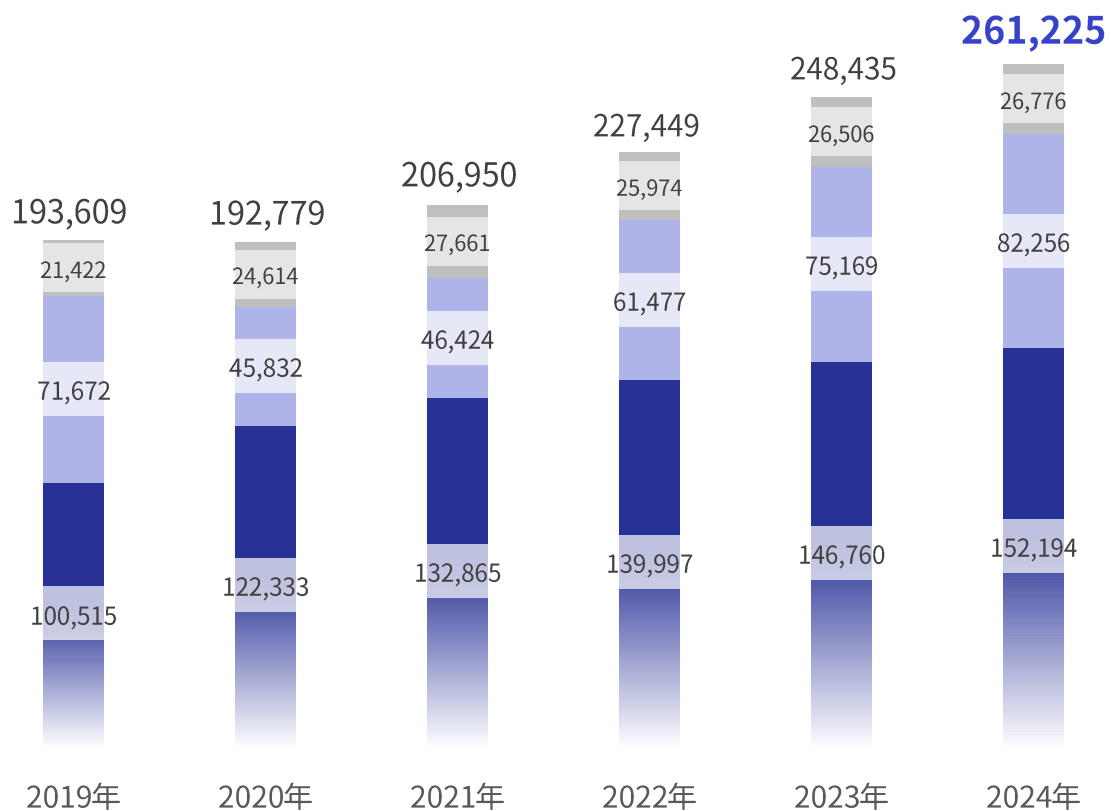
※4: 多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) : 種類の異なる2つ以上の証拠を組み合わせて本人確認を行うセキュリティの仕組み

EC市場の成長に比例してクレジットカードの不正被害（番号盗用被害）が拡大。

- 割賦販売法改正、「クレジット・セキュリティ対策ビジョン2025」が公表される等、不正対策に対する社会的需要が高まっている。

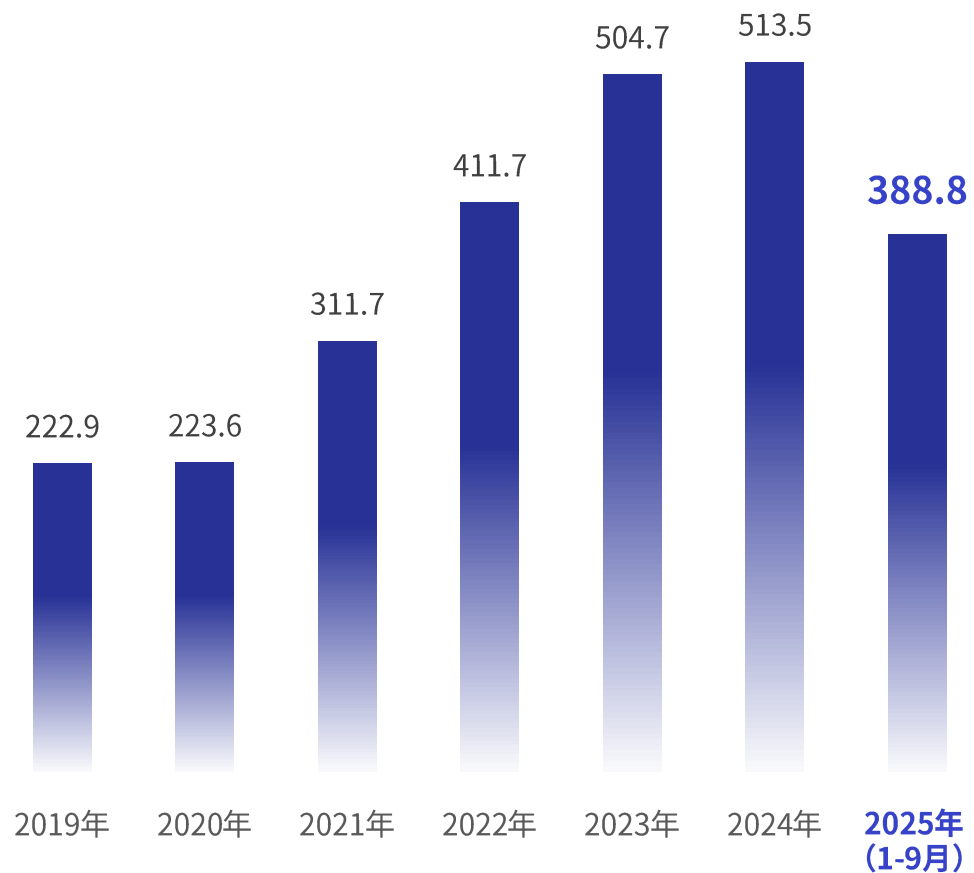
## 日本のBtoC-EC市場規模

(金額単位：億円)



## 日本のクレカ不正被害額（番号盗用）

(金額単位：億円)



※ 経済産業省「令和6年度産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書」  
一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2025年12月

COXIO

---

# 特徴と強み

Key Strengths and Competitive Advantages



# 特徴と強み | 競争優位性



TECHNOLOGY

# 01

## データサイエンスノウハウ



## セキュリティ技術力

高度なデータ解析技術と、セキュリティ領域における専門的なエンジニアリング力を融合。他社にはない独自のアルゴリズム開発を実現。

### 取得特許

特許第6534255号

特許第6534256号

特許第6860156号



TRACK RECORD

# 02

## EC領域とペイメント領域における当社 サービス導入数 国内No.1の実績

EC領域およびペイメント領域において、圧倒的な導入シェアを獲得。豊富な運用実績が、さらなる検知精度の向上という好循環を生み出す。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点



TRACK RECORD

# 03

## 不正検知サービスの 堅調なストック収益

メインサービスである不正検知サービスは、継続的なストック収益モデル。安定した収益基盤が、全社の成長を牽引している。

### ストック収益比率：79.7%

(FY25 通期売上高に占める不正検知サービスのストック収益の割合)

# 特徴と強み | 中核サービスである不正検知サービス「O-PLUX」の競争優位性

## 製品における差別化要因

### 01 大量のデータ保有

国内不正注文データを大量に保有。

導入数国内No.1の実績が支える、圧倒的なデータカバレッジによる高い検知精度。

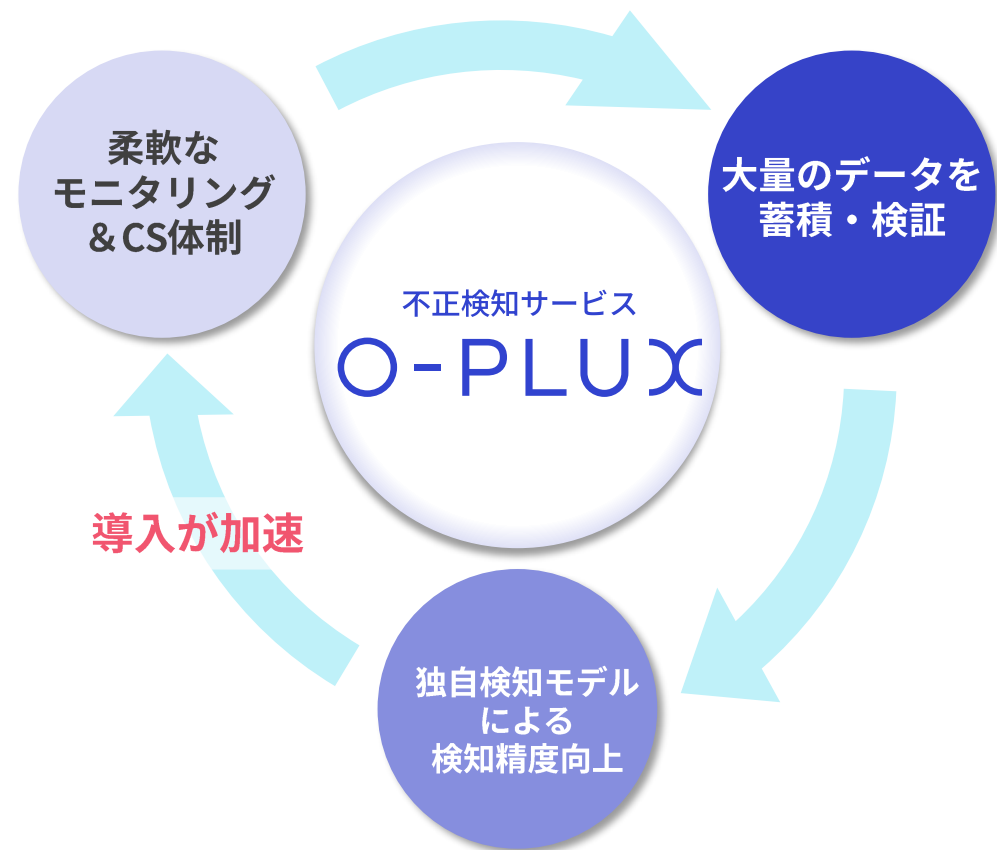
### 02 独自モデルの構築

データサイエンスとセキュリティの技術・ノウハウを融合。  
日本特有の商習慣や不正手口に対応した独自の検知モデルを構築。

### 03 充実のサポート体制

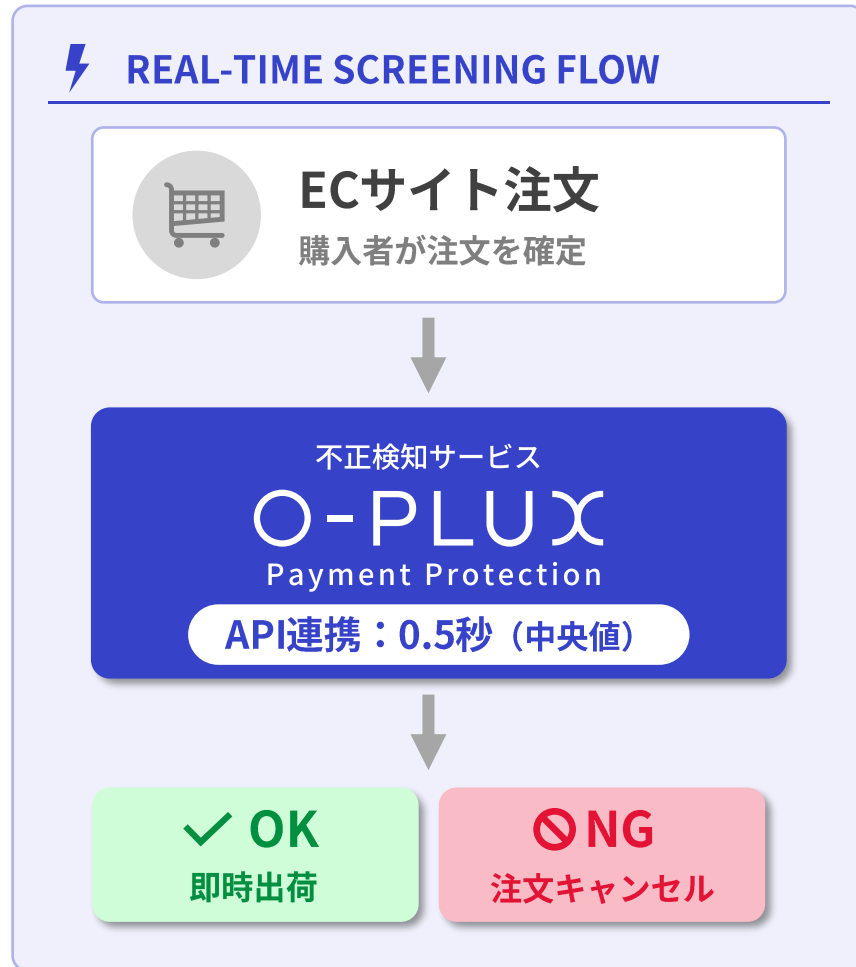
国内自社製品ならではのスピード感&柔軟性でサポート。  
導入後も専任チームがルールチューニングや運用を柔軟にサポート。

## 競争優位性が維持される好循環サイクル



# 特徴と強み | 主力サービスのO-PLUX Payment Protection の概要

## ECにおける代金未払い等の不正注文を独自の審査モデルでリアルタイムに検知



### 主な審査機能（多角的な判定ロジック）



#### メール判定

- メール送信可否判定
- エイリアスメール判定
- 使い捨て/不審ドメイン判定



#### 名寄せ処理

- 異なる表記の同一住所や姓名を正規化処理して活用
- 氏名とフリガナの不一致判定



#### デバイス情報

- IP/Cookieによる同一視判定
- 海外からのアクセス判定
- 言語/タイムゾーンによる外国人のなりすまし判定



#### 外部DB連携

- 住所確認（デタラメな住所）
- 空室判定/ホテル/海外転送
- 電話番号疎通の判定



#### 行動分析

- 短期間の大量購入検知
- なりすまし特有の挙動分析
- 不審な行動パターン抽出



#### 共有ネガティブ

- 導入累計11万サイトの共有ネガティブDB照合
- 初回限定品の買い回り検知
- 業界横断での不正対策

# 特徴と強み | 主力サービスのO-PLUX Payment Protection の競合との機能優位性比較

「O-PLUX Payment Protection」は、あらゆる不正に対応が可能であり、EC事業者を不正被害から守ります。

不正の種類	不正検知サービス O-PLUX Payment Protection	他社A	他社B	他社C	他社D	他社E	他社F	他社G	他社H
 チャージバック	✓	○	✕	○	○	○	▲	○	○
 不正転売	✓	✕	○	✕	✕	✕	✕	✕	✕
 クレジットマスター	✓	○	✕	○	○	○	○	✕	✕
 不正アフィリエイト	✓	✕	○	✕	✕	✕	✕	✕	✕

※1 初回限定価格の商材を不正に大量取得され、転売される不正注文  
 ※2 本情報は各サービスサイトや資料を参考に当社独自で纏めた情報です。

# 特徴と強み | 多様な顧客企業

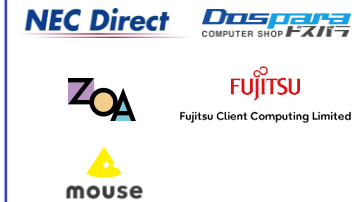
## コスメ・ヘアケア



## ホビー



## PC / タブレット



## チケット



## 食品 / 健康食品



## 住まい / インテリア



## ペット用品



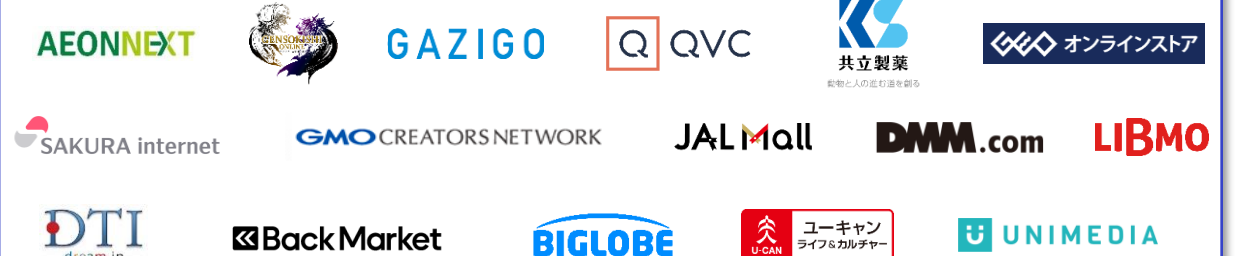
## カメラ / 音響機器



## アパレル / スポーツ / アイウェア / 貴金属



## ネットスーパー / テレビショッピング / ふるさと納税 / MVNO / ホスティング 他



※掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 (50音順) 2026年1月末日時点

# 特徴と強み | パートナー・アライアンス提携企業

## ECカートシステム 他



## カード会社・決済代行会社



※サブスストアとたまごリピートはTAG連携にて標準実装をしています。

※2026年1月末日時点。

※各カートシステムとの標準実装をご利用いただく際、別途開発費が発生する場合がありますので、各システム会社にご確認をお願い致します。

COXIO

---

# 成長戦略

Growth Strategy



## プロダクトの付加価値向上

### サービス拡充

不正検知サービス  
「O-PLUX Account Protection」

不正ログイン検知サービス  
「O-MOTION」

- スマホアプリの不正ログイン審査開始&不正決済ネガティブIPアドレスの検知機能をリリース
- 「makeshop byGMO」と連携。ECサイトの不正ログイン対策を業界最安価格で導入可能に。
- 統合コマースプラットフォーム「ecforce」と不正ログイン検知サービス「O-MOTION」が連携開始
- WordPress専用のECプラグイン「Welcart」と公式連携を開始



## 事業領域の拡大

### 業務提携

- 株式会社NTTデータとクレジットカード不正利用対策の強化に向けて業務提携。



- 株式会社北陸銀行と北陸地域を中心とした企業に対するデジタルトランスフォーメーション (DX) 支援に向けた業務提携。



- 株式会社ペイジェントとEC決済におけるセキュリティ強化を図るため業務提携。



## 海外展開

### 海外展開

- 不正検知サービス「O-PLUX」が世界上位100万のECサイトのうち30%が採用するECプラットフォーム「WooCommerce」と不正検知分野において日本企業として初の開発不要での連携が可能に。

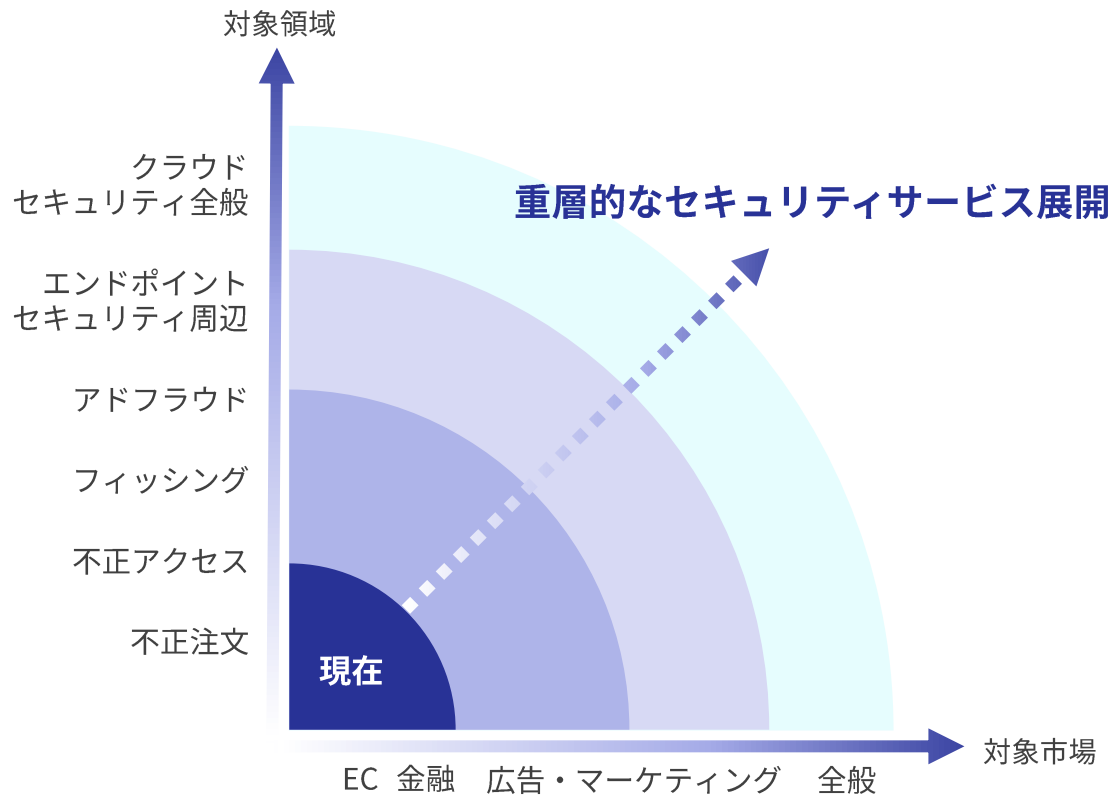


- インドネシアのフィンテック企業Paydia(PT Datacell Infomedia)との協業を開始。

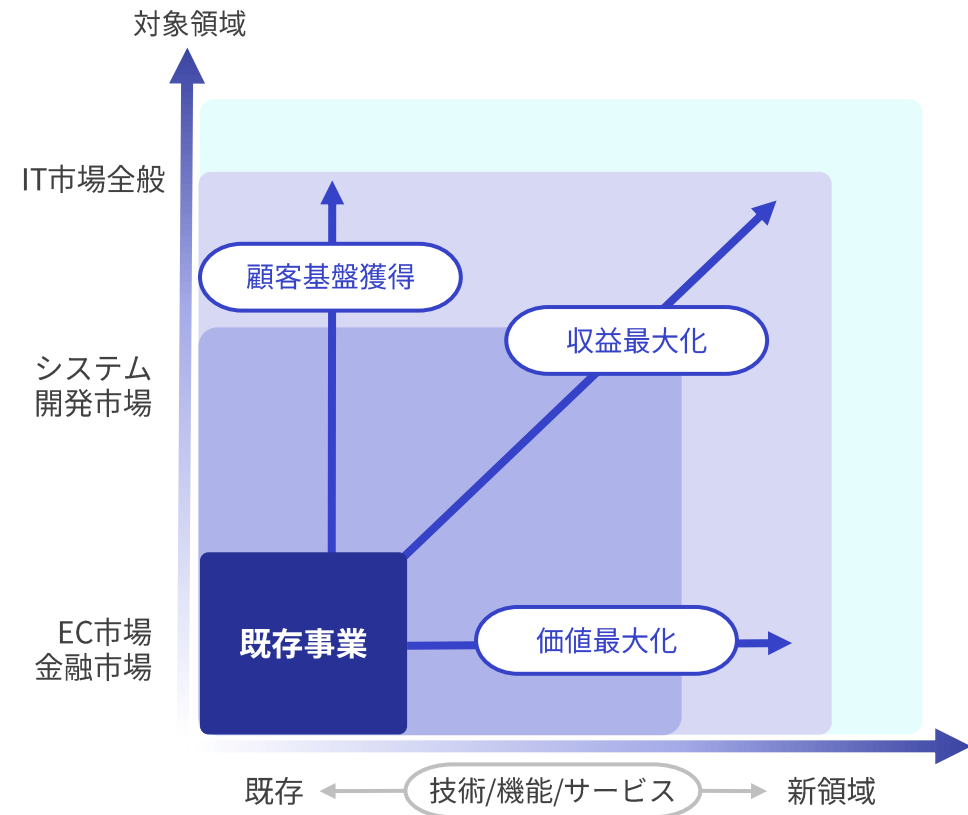


主力である不正検知サービスを基軸としてセキュリティ領域を拡大・深耕し、重層的なセキュリティサービスポートフォリオの構築を目指す。さらに、戦略的な業務提携やM&Aにより事業領域を拡張し、企業価値の最大化を追求していく。

## セキュリティ領域拡大



## 業務提携・M&Aによる事業領域拡大

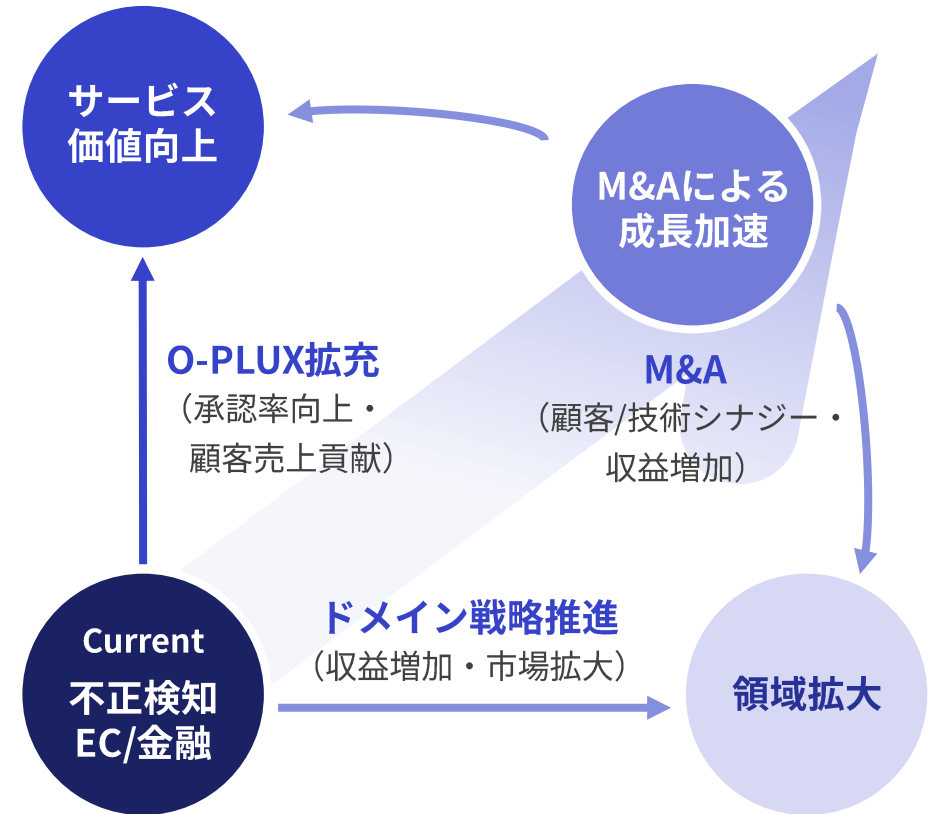


不正検知サービス領域において日本トップのサイバーセキュリティ企業として信頼されるサービスを提供するために「価値向上」と「領域拡大」を続ける

**1** **ドメイン単位での市場開拓戦略の更なる推進**  
 前期に引き続き、EC・金融・海外・新領域の各ドメインにおいて更なる拡大を推進。

**2** **不正検知サービスの機能拡充・シェア拡大**  
 クレジットカード決済承認率の向上とEMV-3Dセキュア※1運用パターンの最適化を軸に、競合差別化をはかるとともに、Shopifyアプリ等への対応も強化しサービス価値向上を追求。  
 金融機関との取引実績拡大によるリレーション深耕、新規導入拡大を推進。

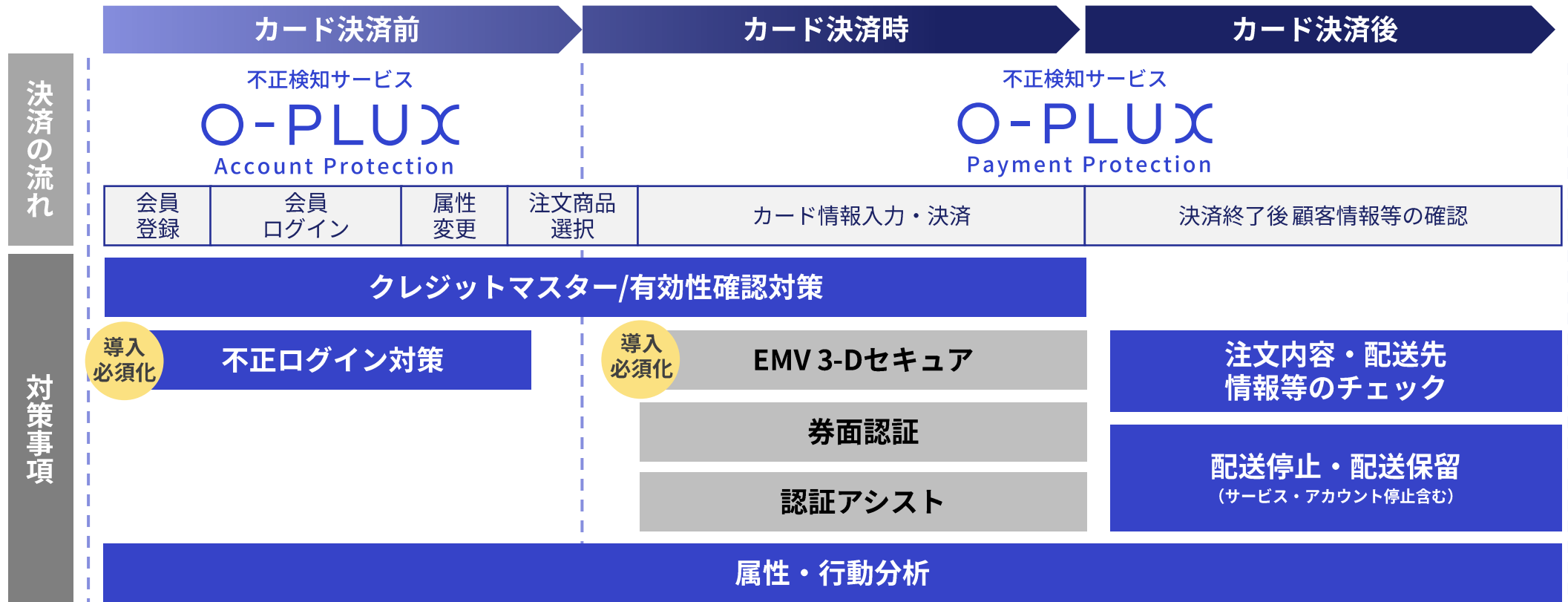
**3** **M&A・業務提携による成長加速**  
 M&A・業務提携により新規事業領域・既存事業周辺技術を獲得し、成長を加速させる。



※1インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】<sup>※1</sup>において、EMV 3-Dセキュア<sup>※2</sup>の導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化されるなど、EC加盟店にとって、クレジットカード取引の流れを「線」として捉え、その線上の各タイミングにおいて適切な不正利用対策を講じることが重要となった。そうした「線の考え方」に基づく一貫した対策が可能なCaccoの不正検知サービスにとって良い市場環境になりつつある。

## ○-PLUXで一貫した不正対策が可能



= O-PLUXで対応可能

※1：クレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会） 2025年3月

※2：EMV 3-Dセキュア：インターネット上でクレジットカード決済をより安全に行うために、国際カードブランドが推奨する本人認証サービス。各ブランドごとに名称は異なるが、総称して「EMV 3-Dセキュア」と呼ばれる。

前期より進めている「ドメイン単位での市場開拓戦略」をさらに推進し、各ドメインにおいて当社サービスを拡大していく。

各ドメインのTAM※1



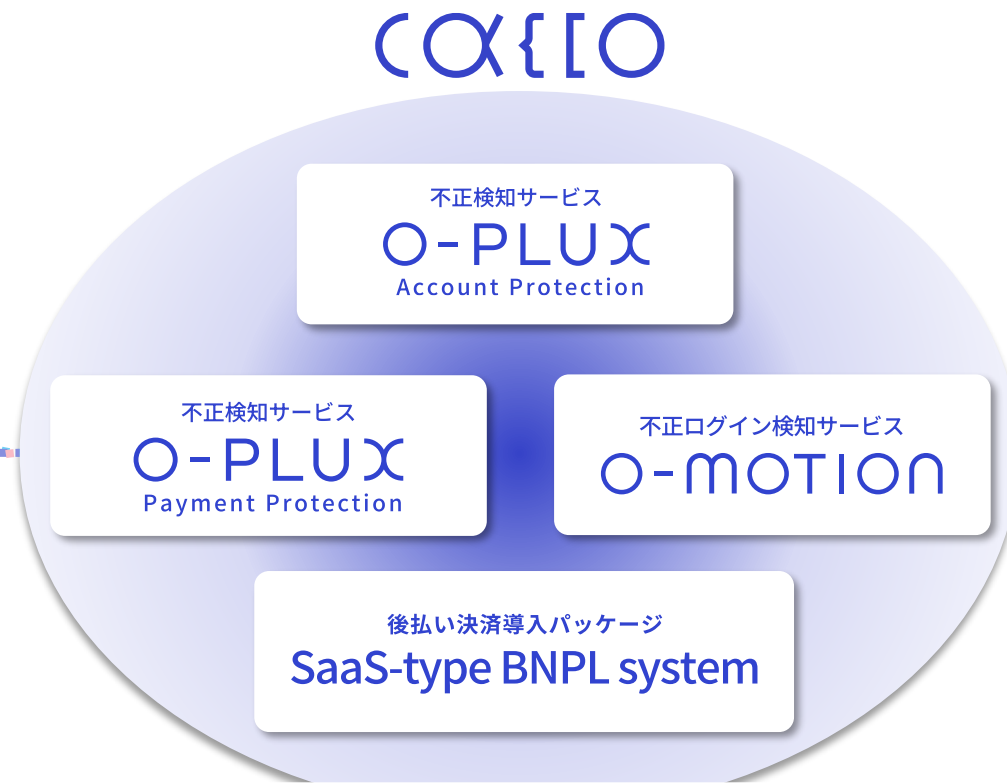
国内EC不正対策市場 約**240~360**億円※2



国内金融不正対策市場 約**720~960**億円※3



海外不正対策市場 (日本除く) 約**4.3~7.4**兆円※4



プロダクト一気通貫のソリューション提供で  
市場ドメイン毎にアプローチ

※1: TAM = (Total Addressable Market: 獲得可能な最大市場規模)

※2: IMARC Group 「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」 (2024年) の予測値を基に、1ドル=150円で換算し、ECセグメント比率を仮定して当社が独自に推計。

※3: IMARC Group 「Japan Fraud Detection and Prevention Market Report 2024-2033」、MarketsandMarkets 「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」の市場データを基に、グローバル市場におけるBFSI (銀行・金融サービス・保険) セグメントの構成比率を適用し、当社が独自に推計。

※4: MarketsandMarkets 「Fraud Detection and Prevention (FDP) Market - Global Forecast to 2030」および Research and Markets 「Fraud Detection and Prevention Global Market Report 2025」の予測値を基に推計。1ドル=150円で換算。

※不正対策=本資料における「不正対策」とは、不正検知・防止ソリューション (ルールベース・AI)、認証・本人確認 (eKYC・3Dセキュア等)、および金融犯罪対策 (AML/CFT) システムを指し、関連するシステム構築 (SI) や運用保守等のサービス費用を含む。

### 不正被害の深刻化

クレジットカード不正利用被害は500億円規模で高止まりしており、EC事業者における対策ニーズは依然としての高い水準に。



### 新たな課題「承認率低下」

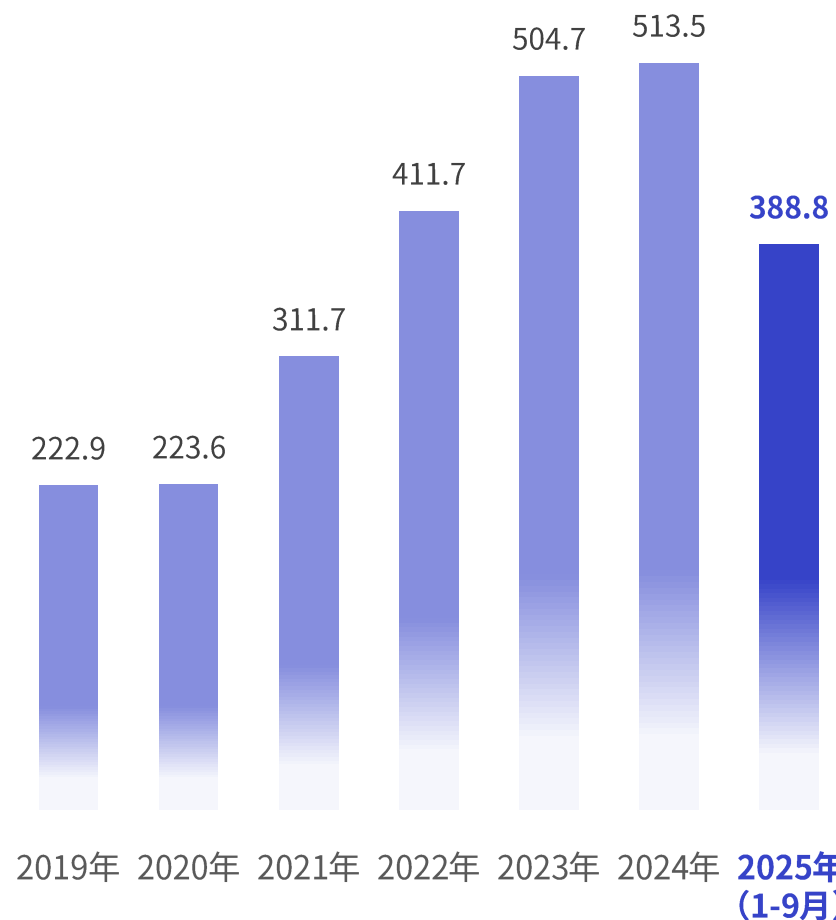
不正利用対策レギュレーション強化※1によりセキュリティ強化（EMV 3-Dセキュア義務化）が進む一方で、不正被害の責任は「加盟店」から「カード会社」へ移行。これによりカード会社が審査基準を厳格化した結果、決済承認率が低下。

### 「カゴ落ち対応」のニーズ増加

真正なユーザーが本人認証の手間を嫌い、離脱してしまう「カゴ落ち」（＝EC事業者の販売機会損失）が課題化。「不正は止めたいが、売上は落としたいくない」というEC事業者のニーズが高まっている。

— クレジットカード不正被害額（番号登用）※2 —

（単位：億円）



※1：2025年3月に発行されたクレジットカード・セキュリティガイドライン【6.0版】（クレジット取引セキュリティ対策協議会発行（事務局 一般社団法人日本クレジット協会））において、EMV 3-Dセキュアの導入必須化のみならず、新たに不正ログイン対策についても導入必須化

※2：一般社団法人日本クレジット協会「クレジットカード不正利用被害の発生状況」2025年12月

### ⚠️ 大手ネット証券を中心に不正アクセス被害が発生

2025年初頭から大規模な不正アクセスが急増

被害総額: 2025年7月末までに約6,200億円、年間では約7,393億円。 ※1

被害件数: 不正アクセスを受けた口座は約1万5,000件、不正取引件数は累計9,752件。 ※1

### 🛡️ 手口の巧妙化による既存認証手段の限界

ダークウェブへ流出した160億件の認証情報を悪用したリスト型攻撃に加え、マルウェアを経由した「遠隔操作」や、AIが生成する高度なフィッシングにより、従来のID/PW認証は期待された役割を果たせなくなっている。

### 🔄 規制強化と業務負荷

金融庁による監督指針※2等により、内部管理態勢の整備および口座開設・ログイン・取引時におけるセキュリティの確保等が求められ※3対策業務負荷が増大している。

➡️ **多要素認証※4 (MFA) 必須化・不正アクセス検知必須化**

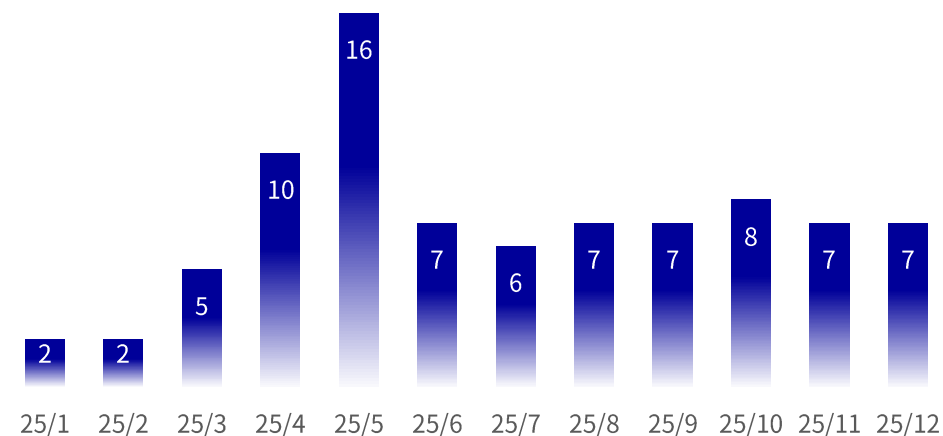
※1: 金融庁「インターネット取引サービスへの不正アクセス・不正取引の発生状況」2026年1月

※2: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月

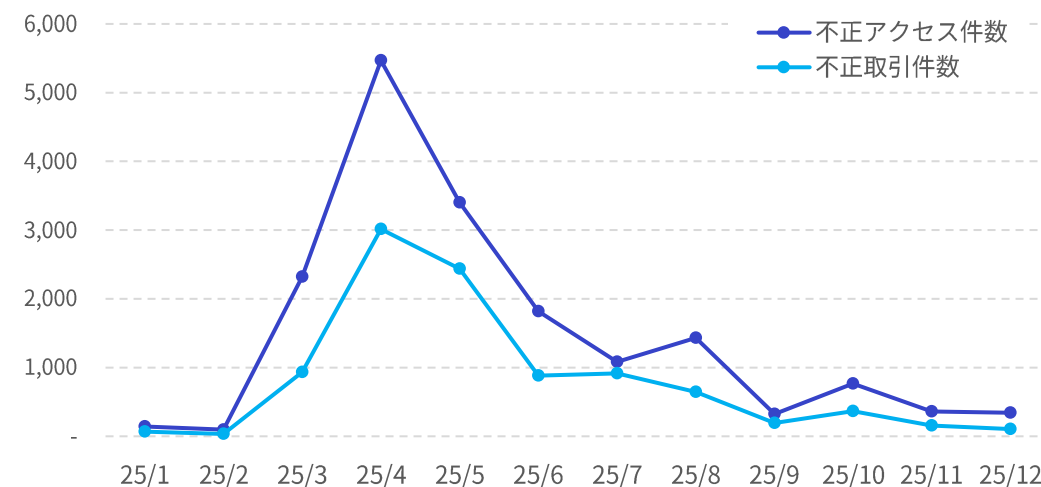
※3: 金融庁「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」2025年12月 - (監督指針III-2-8-2-2)

※4: 多要素認証 (MFA: Multi-Factor Authentication) : 種類の異なる2つ以上の証拠を組み合わせて本人確認を行うセキュリティの仕組み

— 不正取引が発生した証券会社数推移※1 —



— 不正アクセス・不正取引件数推移※1 —



EC領域

不正検知サービス

**O-PLUX**  
Payment Protection

カード会社と連携し、承認率向上を起点とした「O-PLUXの成長サイクル」でシェア拡大



カード会社と連携しO-PLUX全件審査を推進、不正者取引がカード会社へ流れることを阻止



クレカ決済承認率の向上・カゴ落ち（誤検知）防止



顧客の売上最大化  
機会損失を防ぎトップライン向上



O-PLUXニーズ増加  
守りだけでなく、「売上増加のツールのひとつ」として認知



O-PLUXの顧客基盤（シェア）の拡大  
競合優位性の確立と新規獲得推進、審査データ増加

循環



実現のためのアクション

- EMV-3Dセキュア運用の最適化：**  
リスクベース認証の適用を支援。真正なユーザーの認証をスキップさせ、購買完了率を高める。
- カード会社との連携：**  
カード会社と連携し、加盟店が「O-PLUX導入による承認率向上→売上増」を定量的に実感できる環境を構築。
- 国内No.1の導入実績を活かした運用提案：**  
画一的なシステム提供ではなく、国内の不正傾向・商習慣に精通した「きめ細やかで柔軟な運用チューニング」で、他社には真似できない承認率向上を実現する。

 金融領域

不正ログイン検知サービス  
**O-MOTION**

不正検知サービス  
**O-PLUX**

最新の金融業界での不正手口に対応し、  
金融機関のセキュリティ対策パートナーとしてシェア拡大を図る

※EC領域では「O-PLUX Account Protection」、  
金融領域では「O-MOTION」の名称にてサービス提供



### 金融特化の機能拡充

- 遠隔操作
- 危険国からのアクセス検知
- 外部DB連携の拡充



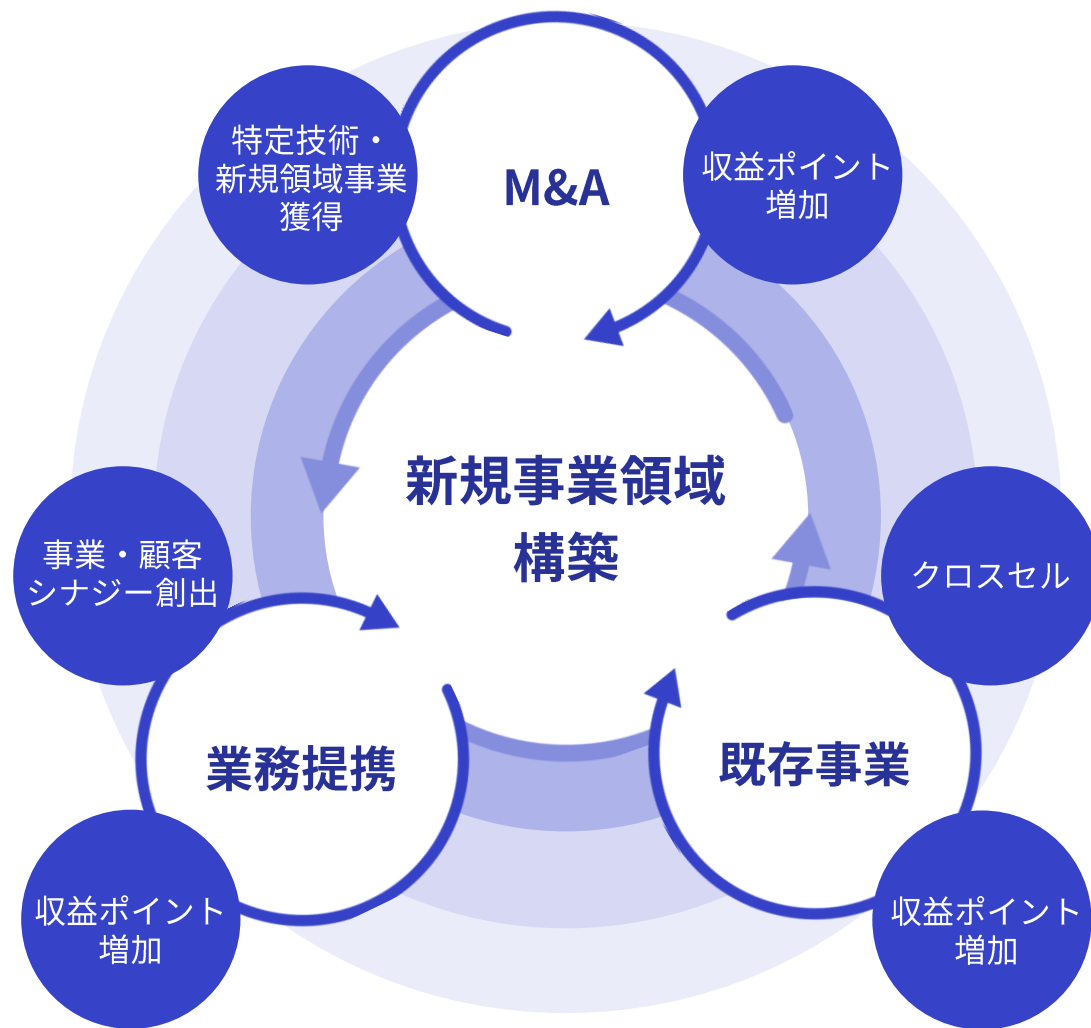
### 一気通貫の対策訴求

口座開設審査 → ログイン → 取引  
の入口から利用までをシームレス  
に対策可能な体制構築を支援。



### コンサルティング支援

- 内部管理態勢の構築支援
- 不正検知に特化したデータサイエンス支援



収益・技術・事業の3軸のシナジー

• 収益拡大：

M&Aにより新たな収益源を即座に獲得し、トップラインの非連続な成長をめざす。

• 既存事業シナジー：

獲得した事業領域の顧客基盤・商材を既存のEC・金融ドメインと相互にクロスセルし、強固な収益構造を構築する。

• 技術シナジー：

M&Aによって特定技術を時間をかけずに獲得・実装を行うことで、開発ロードマップを短縮し、製品競争力を向上をする。

COXIO

---

# 事業計画および進捗

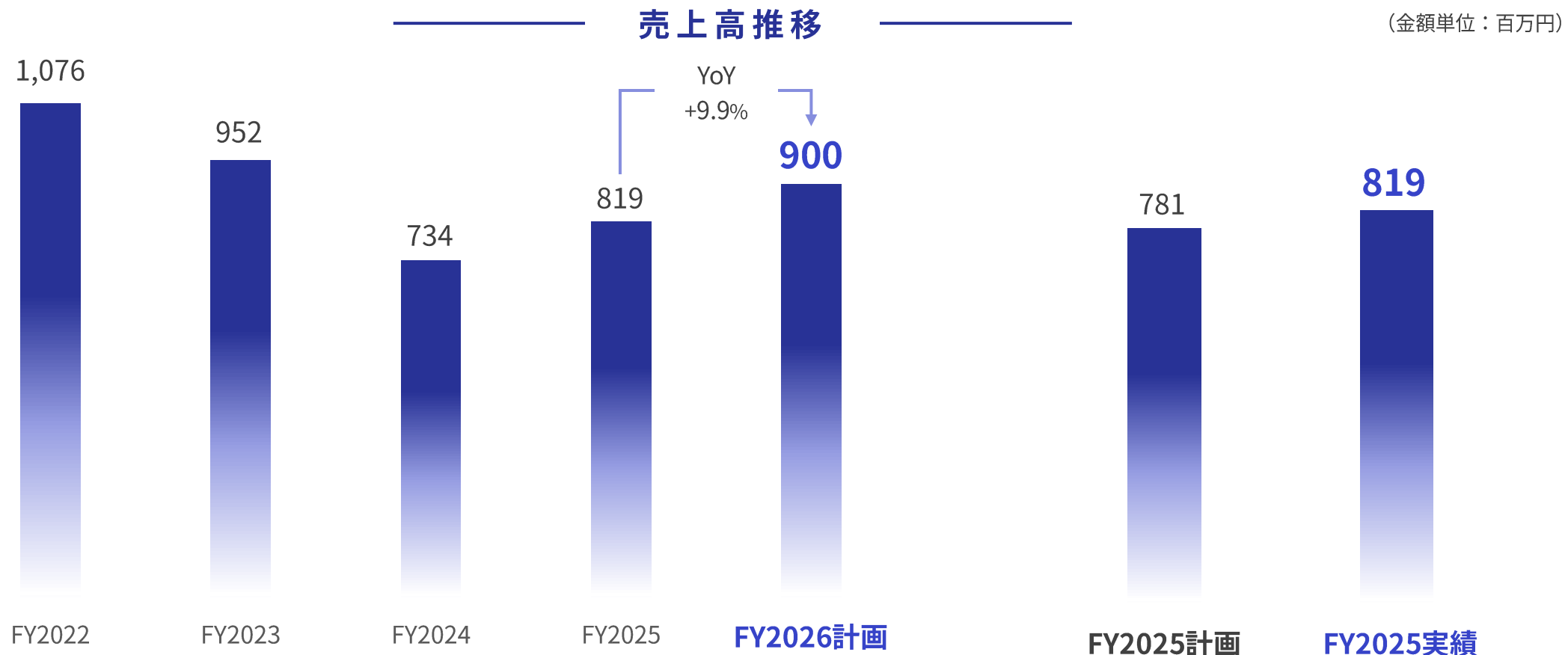
Business progress and forecast



FY2025 通期売上高は819百万円 (YoY+11.6%)、計画達成率104.8%で着地。

- 不正検知サービスにおいて新規顧客獲得と既存顧客の利用拡大が進み、通期予想を着実に達成。

FY2026売上高は、主力の不正検知サービス売上高がNTTデータとの提携により増加 (YoY+17.0%)、2026年12月期の売上高は900百万円 (YoY+9.9%) を見込む。



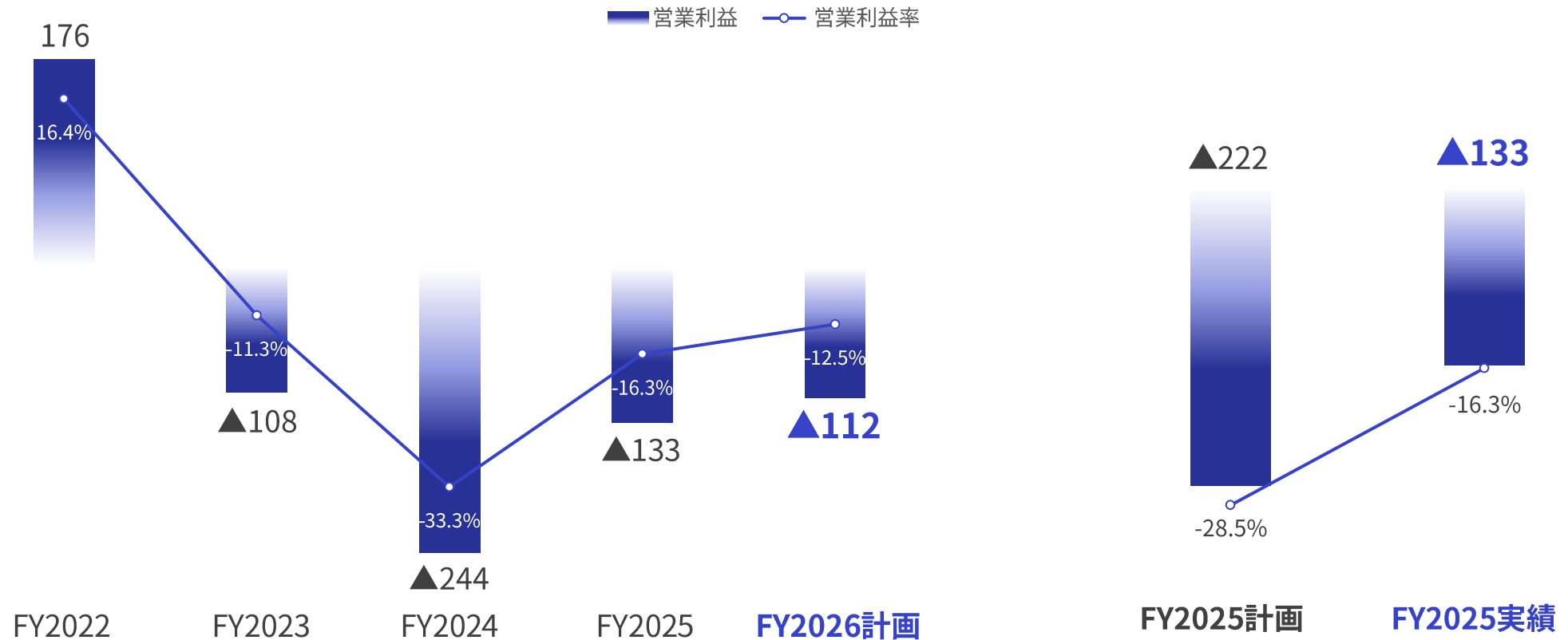
FY2025 通期営業利益は▲133百万円、営業利益率は▲16.3% (YoY+17.0pt) で着地。

- 不正検知サービス拡販のための展示会等セールスマーケティングイベント参加数を増加させたことで広告宣伝費が増加。
- 不正検知サービスの追加機能開発の費用が増加したため、その他（研究開発費）が増加。

FY2026 通期営業利益は、更なる収益拡大に向けたプロダクト開発力の強化を目的として、エンジニアを中心とした採用投資を積極的に実施予定。営業利益は▲112百万円を見込む。

## 営業利益推移

(金額単位：百万円)



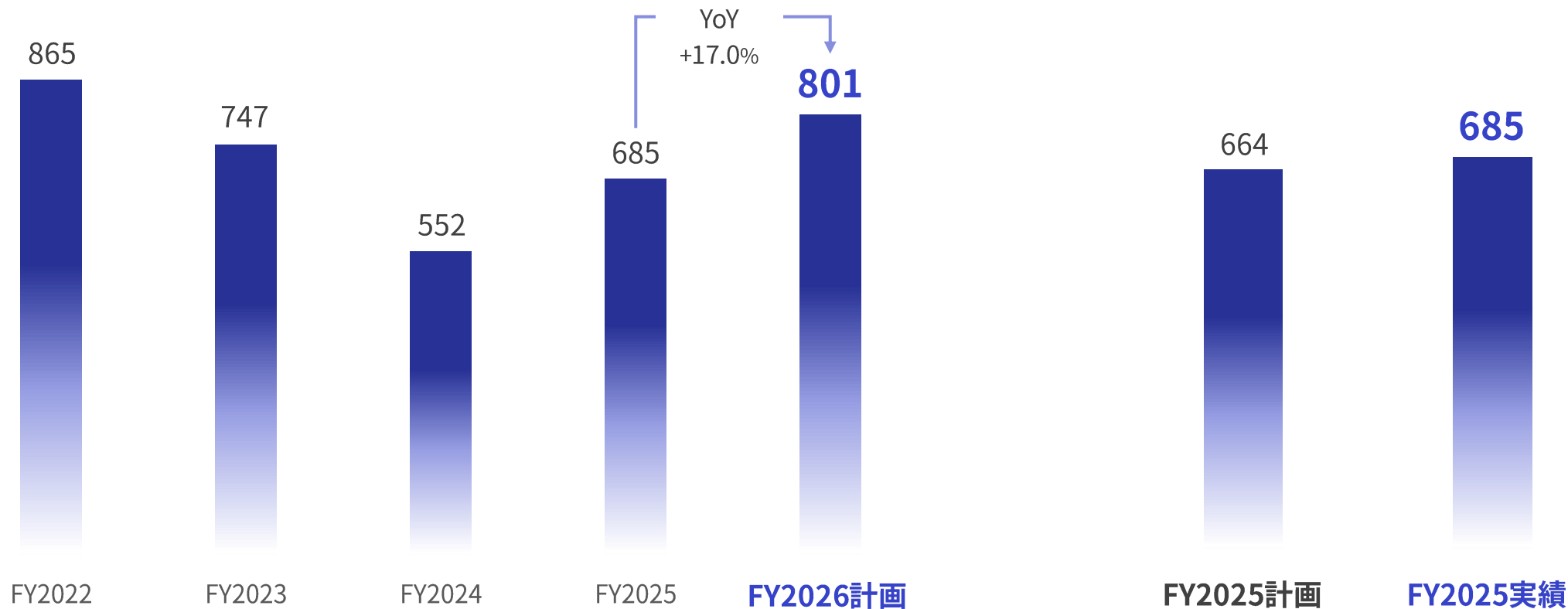
FY2025 不正検知サービス売上高は685百万円 (YoY+24.0%)、計画達成率103.1%で着地。

- 不正検知サービスにおいて新規顧客獲得と既存顧客の利用拡大が進み、通期予想を着実に達成。

FY2026 不正検知サービス売上高はNTTデータとの提携により増加し、801百万円 (YoY+17.0%) を見込む。

## 不正検知サービス売上高の推移

(金額単位：百万円)



(金額単位：百万円)

	FY2022 通期	FY2023 通期	FY2024 通期	FY2025 通期	FY2026 通期計画	YoY 増減
<b>売上高</b>	1,076	952	734	819	<b>900</b>	+9.9%
(不正検知サービス売上高)	865	747	552	685	<b>801</b>	+17.0%
<b>営業利益</b>	176	▲108	▲244	▲133	▲112	-
(営業利益率)	16.4%	▲11.3%	▲33.3%	▲16.3%	▲12.5%	-
<b>経常利益</b>	154	▲117	▲254	▲137	▲116	-
(経常利益率)	14.3%	▲12.4%	▲34.7%	▲16.7%	▲13.0%	-
<b>当期純利益</b>	100	▲320	▲255	▲137	▲117	-

COXIO

---

# 主な事業リスクと対応策

Major business risks and countermeasures

成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクは以下の通り。

- その他のリスクにつきましては、2025年12月期 有価証券報告書に記載の「事業等のリスク」をご参照ください。

主要なリスク	リスクの概要	発生可能性	影響度	対応策
競争について	当社の主たる事業領域である、EC市場、セキュリティ市場、及びデータサイエンス市場において、今後多くの企業の参入が見込まれ、競争サービスが増加する可能性があります。	高	中	当社は、付加価値向上を図るべく積極的にサービス開発投資を推進し、今後の成長性及び競争優位性の維持・向上に努めるとともに、アライアンス・M&Aの推進等により、既存事業の拡充、関連技術の獲得等を図ってまいります。
特定の市場・取引先への依存について	当社の売上高に占める不正検知サービスの売上高の割合は75.3%、それら取引先はいずれもEC事業者であるため、予期せぬ環境変化、当該市場の成長に何らかの問題が生じた場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。	中	高	当社は、不正検知サービス以外のサービスの収益貢献を早期化させ、EC市場のみならず多様な市場からの収益獲得を進めてまいります。
システム障害について	サービスの基盤をインターネットに依存しているため、システム障害の発生やサイバー攻撃によるシステムダウン等大規模なシステム障害が発生した場合には、サービスの提供に支障をきたす可能性があります。	中	中	当社では、情報セキュリティマネジメントシステム認証を取得し、リスクマネジメントに努め、また、システム障害の発生やサイバー攻撃によるシステムダウン等を回避すべく、サーバー設備の強化や稼働状況の監視等により未然防止策を実施しております。
個人情報保護法による規制について	個人情報の外部流出もしくは悪用される事態が発生した場合には、当社が法的責任を追及されるほか、当社及び当社サービスの信頼性やブランドが毀損する可能性があります。	低	高	当社は、不正検知サービスの審査データについて、利用企業におけるハッシュ化※等の処理の結果、特定の個人が識別されることのない態様により受領しております。また、一般財団法人日本情報経済社会推進協会が発行するプライバシーマークを取得しております。

※ ハッシュ化 元のデータから一定の計算手順に従ってハッシュ値と呼ばれる規則性のない固定長の値を求め、そのによって元のデータを置き換えること。

## 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料の作成について、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

なお、本資料の次回アップデートは、2027年3月を予定しております。



### CONTACT INFORMATION



[ir@cacco.co.jp](mailto:ir@cacco.co.jp)



<https://cacco.co.jp/ir/>

お問合せ・個別取材のお申込みは、上記よりIR担当までご連絡ください。

COXIO



# Appendix



## CLIENT

総合小売企業様

年間流通額：約70億円

## 課題

ECサイトにおけるクレジットカードの不正利用が多発。  
被害額は、**最大1,000万円/月**に達していた。

## 対策

不正検知サービス「O-PLUX」を導入。  
リアルタイム検知による不正防止体制を構築。

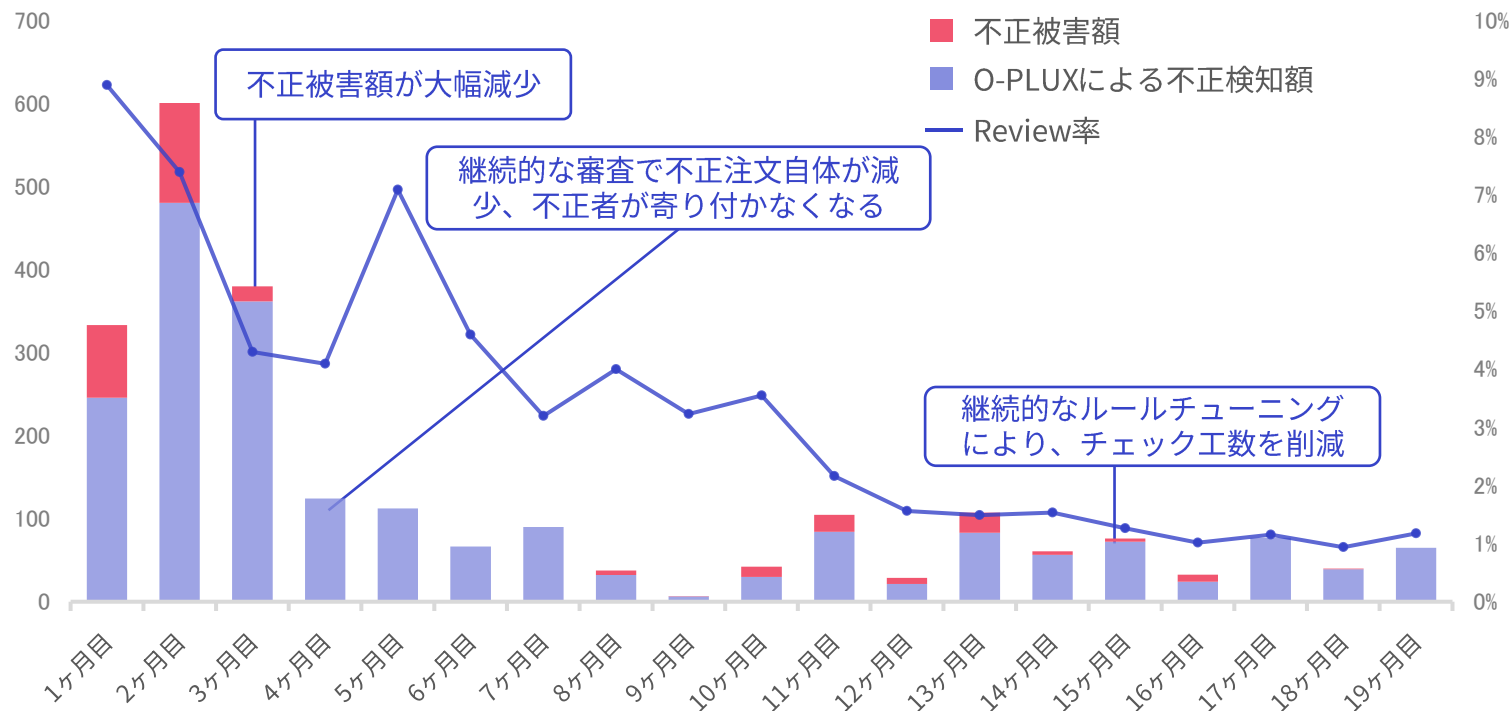
## 導入成果

**2.5** 億円相当 (5年間累計)

導入初年度に1億円クレジットカード不正利用被害を未然に検知・防止

## 導入後の不正被害・検知額推移

(単位：万円)



## 成果のポイント

導入直後から不正被害額が激減。継続利用により、不正注文自体も沈静化、REVIEW（目視確認）率も低下し業務効率が向上。

※不正を検知した金額とは、審査結果「NG」または審査結果「REVIEW」でカード属性の不一致、出荷前の本人確認等によりチャージバックとなる前に不正確定（ネガティブ登録）された取引の合計金額。  
※Review率とは、審査件数全体に対する審査結果「REVIEW」の件数の割合。

## 株式会社キタムラ様

「O-PLUX」の導入で、目視チェックの限界を突破。  
3Dセキュアとの併用で、より強固なセキュリティへ。

### ⚠ 導入前の課題

3Dセキュアを導入していたものの、クレジットカード不正利用が依然として発生。  
目視チェックで対策を行うも、手口の巧妙化により工数が限界に達していた。

### ✓ 導入後の効果

3Dセキュアを補完する形で、キタムラ様向けにローカライズされた審査ルールを構築。  
目視チェックの課題を解消し、業務効率が劇的に向上。



OK判定取引の  
不正利用

0 件

目視チェック工数  
削減効果

2 名分

株式会社キタムラ様事例インタビュー全文

[https://frauddetection.cacco.co.jp/o-plux/case\\_studies/kitamura/](https://frauddetection.cacco.co.jp/o-plux/case_studies/kitamura/)

## 株式会社イープラス様

追加認証件数を通常の30分の1に削減。  
ユーザーの利便性と不正ログイン対策を両立。

### ⚠ 導入前の課題

全件認証ではユーザーの利便性が低下する懸念があった。  
また、人気公演の発売日など、急激なアクセス増大時でもシステムに影響が出ない対策が求められていた。

### ✓ 導入後の効果

セキュリティを強化しつつ、追加認証の対象を当初想定<sup>1</sup>の1/30に抑制。  
急激なアクセス時もトラブルなく運用し、導入後のクレーム発生もゼロを実現。

e+ イープラス



追加認証削減

想定<sup>1</sup>の **1/30** に

導入後の  
クレーム発生

**0** 件

株式会社イープラス様 事例インタビュー全文  
[https://frauddetection.cacco.co.jp/case\\_studies/eplus](https://frauddetection.cacco.co.jp/case_studies/eplus)

ぴあ株式会社 様



リスクベース認証により、疑いのあるユーザーのみ追加認証。  
幅広い年齢層の利便性を損なわず、なりすましログインを根絶。

なりすまし  
ログイン  
**0**件

### ⚠ 導入前の課題

短期間のアクセス集中時に、機械的ななりすましログイン攻撃が発生。  
一方でユーザーの年齢層が幅広いため、認証の複雑化による利便性低下は避けたい。

### ✔ 導入後の効果

O-PLUXで機械的なアクセスを検知し、なりすましログインが0件に。  
「疑わしい場合のみ」複数要素認証を行うことで、真正ユーザーの利便性を維持。



## 大手金融機関様

ログの可視化により、モニタリング工数を大幅削減。  
 端末特定技術で、IPアドレスに依存しない高度な対策を実現。

モニタリング工数  
**大幅削減**

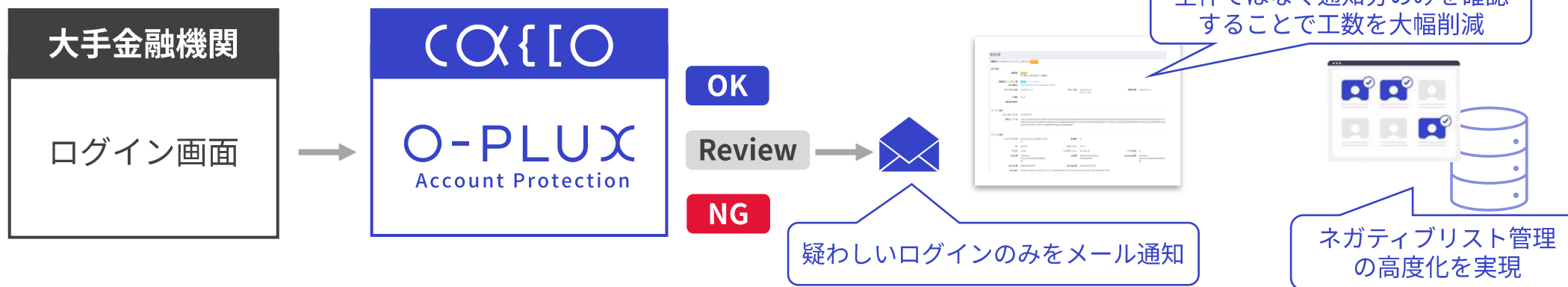
ネガティブリスト  
**管理の高度化**

### ⚠ 導入前の課題

ログの記録はしていたが可視化されておらず、手動モニタリングに膨大な工数が発生。  
 IPアドレスのみの制御では限界があり、精度の高いネガティブリスト管理が必要だった。

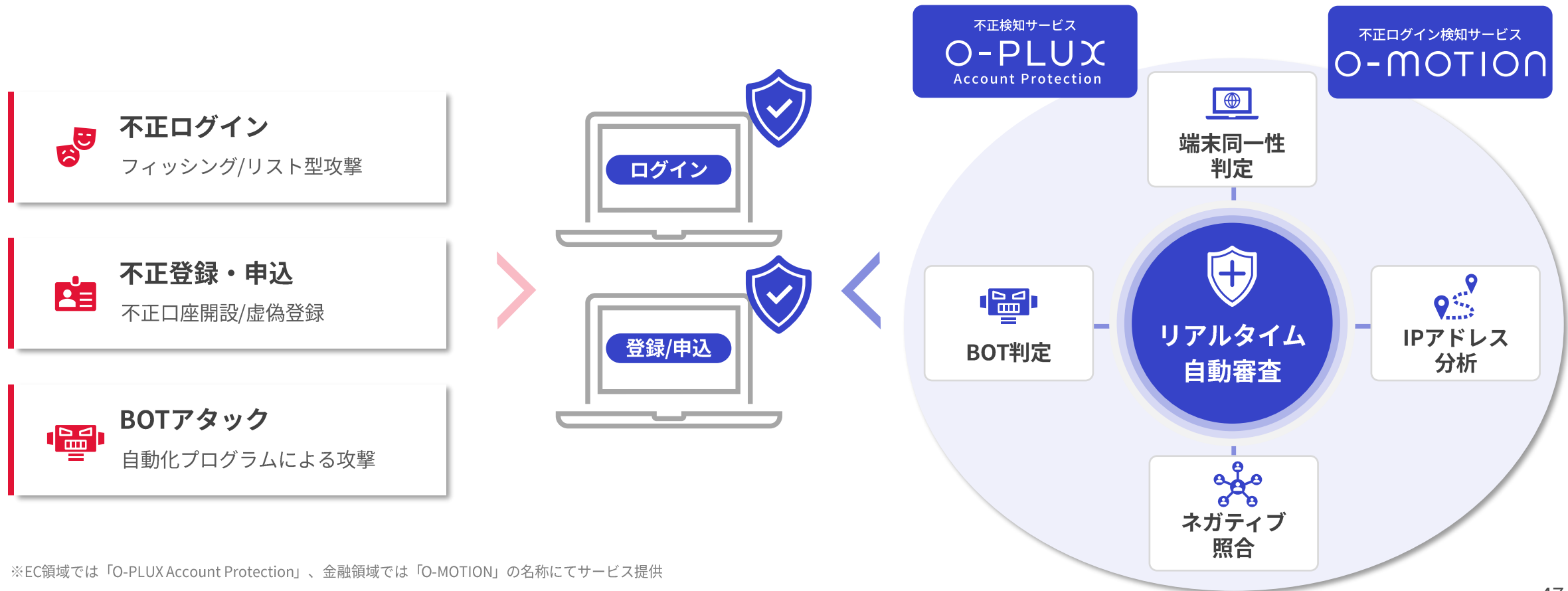
### ✓ 導入後の効果

ユーザー毎のアクセスデータを可視化し、疑わしい動きのみを通知することで工数を削減。  
 端末特定技術により、IPアドレスだけでなく端末特定情報を含めたネガティブリスト管理が実現。



# 不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」 / 不正ログイン検知サービス「O-MOTION」の概要

WEBサイトにアクセスしたユーザーの操作情報、デバイス情報等をリアルタイムに分析。  
他人のなりすましを識別し、不正アクセスから生じる不正行為(個人情報漏洩・不正購入etc.)を防止。



※EC領域では「O-PLUX Account Protection」、金融領域では「O-MOTION」の名称にてサービス提供

# 不正検知サービス「O-PLUX Account Protection」 / 不正ログイン検知サービス「O-MOTION」 | 導入企業<sup>※1</sup>

チケットサイト、金融機関や各種ポイントサイト・会員サイト等、高度なセキュリティが求められる業界での導入が進捗。

ECサイト

ORBIS

通信販売

Q QVC

※稼働準備中

チケットサイト

e+ イープラス  
チケットぴあ

会員サイト

共立製薬  
動物と人の進む道を創る

NFTゲーム



ECカート/パッケージ

futureshop

消費者金融

ベルーナノティス

不動産クラウド  
ファンディング

creal  
クリアル株式会社

その他社名非公開  
導入企業

銀行  
証券会社  
金融グループ信販会社等

※ 掲載許諾を得た一部の企業のみ掲載 2026年1月末日時点

# 決済コンサルティングサービス

BNPLの構築・立上げについて、サービス構築、決済システム開発、運用サポートまでワンストップで支援。  
審査エンジンは不正検知サービス「O-PLUX」を提供。

## 》》》 ONE-STOP-SUPPORT



BNPL事業検討・構築



決済システム開発



運用サポート



審査エンジン提供「O-PLUX」

## 》》》 3つの強み

01

POINT

### 複数のBNPL事業の立ち上げ・開発実績

- ・ 月間取引数百万件規模の決済システム構築実績
- ・ 事業計画、各種要件定義などの立ち上げサポート
- ・ 事業開始後の運用構築（与信など）までカバー

02

POINT

### BNPL運用経験者による専門コンサルティング

BNPLの運用経験豊富なコンサルタントが、お客様の視点に立って最適な提案を実施。システムだけでなくビジネス面も強力にバックアップ。

03

POINT

### 国内導入数No.1の「O-PLUX」による不正検知

当社は、シビアな精度が求められる金融・決済分野で不正検知の実績をあげてきました。不正検知サービス「O-PLUX」は国内導入数No.1※を獲得しています。

※ 株式会社東京商工リサーチ「日本国内のECサイトにおける有償の不正検知サービス導入サイト件数調査」2025年3月末日時点

# データサイエンスサービス

AI・統計学・数理最適化の技術をもとに、予測のモデル化や機械学習を適用した自動化など、経営に資する数値を最適化するアルゴリズムを開発・提供。

## Our Approach



### KPI算出

データの集計・可視化から、要因分析、KPI算出、提案までを実施。



### データサイエンス分室

自社の一部門の様に、データ分析サービスを月額契約で活用可能。多様な分析ニーズに対応可能。



### アルゴリズム開発

経験値に頼らない最適化、自動処理による生産性向上。需要/リスク予測など、利益拡大を追求する専用アルゴリズムを開発。

## Case Studies

### 年商1,190億円の壁材メーカー

最適化

1700製品・12生産レーンにおける複雑な生産計画を自動作成。  
生産量の最大化とロス最小化を両立。

1.3億円

年間コスト削減（最大）

### 年商55億円の文具メーカー

統計・AI

カレンダー・手帳等の需要予測と生産指示アルゴリズムを開発。  
欠品による機会損失を最小化。

70%

販売機会損失削減

### コールセンター

最適化

翌月の日・時間帯単位での需要を予測し、経営指標、従業員の勤務希望、労働条件といった複数の制約を満たす人員配置計画を自動生成。

0.6億円

年間コスト削減

C O X { [ O

未来のゲームチェンジャーの  
「まずやってみよう」をカタチに